

町民と政党のつどい

町が公民館使用許可を 前日に取り消し

「町民と政党のつどい」実行委員会は、12月2日に政党代表を招き「野党共闘について話し合う町民と政党のつどい」を行うことを計画し、11月4日に公民館の2階会議室の使用を申し出て、許可を受けました。



ところが、前日の12月1日突然使用許可が取り消されました。町は公民館だけでなくほかの公共施設の使用も認めず開催に大きな影響が出ました。経過は次の通りです。11月29日公民館長から「つどいが公民館の使用内規に抵触するとの外からの声があるので、内容を聞きたい」と連絡がありました。

当日実行委員会事務局長の私が、3者（平林教育長、藤沢学校教育課長、平川公民館長）と面談し、「内規に抵触しない」旨を確認し、翌30日付で教育委員会の「公民館使用に係わる確認事項」なる公式文書が発給されました。

消し処分を文書にするように申し入れ、「許可取り消し通知書」を2日に受け取りました。

理由は①申請は「会議」だがチラシでは「つどい」となっている、②チラシに特定政党の利害に関することが記載されている（野党4党代表が出席）というものでした。

今まで公民館で、国会議員や県会議員などの報告会も数多く行われていますが、問題になったことは一度もありません。今回だけなぜ前日に許可取り消しになったのでしょうか。

「つどい」は、急きょ一丁目基幹センターをお借りして実施することが出来ました。

政党代表として下条みつさん（民進党）、清沢達也さん（日本共産党）、中川博司さん（社民党）、八木聡さん（みどりの党）に参加していただき、膝を交えて野党共闘やTPP、平

和、福祉などについて活発な意見交換が行われました。

直前に会場が変わったにも関わらず、町内外から80名の方々が参加し、大変盛り上がり、野党共闘への期

一般質問を傍聴して

12月18日は日曜議会一般質問でした。日曜議会はこちらの議会で行われていますが、傍聴者が思いのほか少なくてがっかりしました。

一般質問は議員にとってアピールできるよい機会なので、もつと大勢の方に来ていただけたらと思います。

服部議員が「町が公民館使用許可を前日に取り消した問題」を聞きしました。

町は「外からの声があったので調べて取り消した」と言っていますが、その声の主は誰なのか是非知りたいたと思います。

3丁目 山本久子

待の大きさを感じました。今後、町に対してこの問題の起きた原因をはっきりさせるように強く要求していきます。

町民と政党のつどい実行委員会事務局長 牛越邦夫

ファンクラブ主催 総会・新年会

日時 1月22日（日）
午前10時
場所 池田町福祉会館（1丁目）
会費 800円
議題 ・前年の活動報告と会計報告
・2017年の活動方針と予算承認

総会に引き続き、新年会を行います。歌やゲームなどの楽しい企画をお楽しみください。（一品持ち寄り歓迎です。）
お申し込みは議員またはファンクラブ役員までお願いいたします。



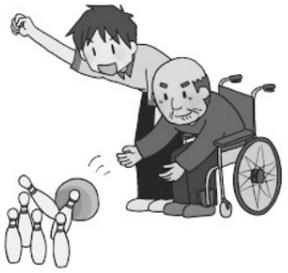
介護予防・日常生活支援総合事業つてなに

人材養成講座に参加して

来月4月から、介護保険の「要支援者」に対する訪問介護と通所介護サービスが介護保険から離れ市町村の総合事業に移行することになります。

町が11月に3回にわたり「介護予防・日常生活支援サービス人材養成講座」を開催した際、私は「これからの地域の支え合い」について学びたく講座に参加しました。

北アルプス広域連合の主催でしたが、池田町だけでも70人程が参加し、実際にサービスを提供している方々から様々な意見があ



り、楽しい講座でした。

4月からの総合事業について少し触れてみます。

要介護1～5の変更はありません。要支援1・2では訪問看護（看護師の訪問）やリハビリ等は継続になります。訪問介護や通所介護（デイサービス）は総合事業となります。

ただし、詳細については今後の町の説明を待ちましょう。

町としては、いろいろな方法を検討しているようです。ここでは65歳以上のすべての方を対象とした「一般介護予防事業」について触れてみます。

国の政策では介護予防を、民間事業者や住民ボランティアに担わせる方針です。介護予防を徹底的に実施すれば、要介護者が減り、保険料が下がるので推進すべきとの考えです。

読者のひろば

聞いて！聞いて！

こんなことがあっていいの

目の前でなにかの拍子で子どもが転ぶ。「助けて！」と子どもが声を上げる。誰もが知らぬ顔。

その子どもが小学生の時に経験した灰色の世界。東日本大震災で故郷福島県を出て横浜へ避難せざるを得なかった。待つていたのは原発事故から逃れて福島から来たというだけで「ばいきん」扱い。実に冷酷ないじめ。

なぐられ、蹴られ、金まで取られた。訴えても「先生に言おうとすると無視された。

中一になったその子の公表した手記に涙を流した。背中に加えられたのは冷たい拳。それを学校や大人が放置した。放射能はばいきん。自主避難者は、たくさん金をもらった。誤解や偏見、それが子供に伝わったのだ。

り、体操を中心にした充実プログラムを展開すること。

③専門の理学療法士の指導を受けられる体制を作ること。

無理せず楽しく参加できる方法を地域から発信していくことが大切だと思っております。そのためには運動をすすめるサポーターの確保をみんなで考えていくことが重要だと思えます。

3丁目 薄井百子



「バイショウ金をたくさんもらっただろう!!」と金をせびられた子どもの気持ち。その家庭の生活態度。小学生は理解できない。しかし、それでもこの子の言葉。「しんさいでいっぱい死んだからつらいけれど、いきると決めた。」この言葉は、学校のだれもが目をふせても、震災で犠牲になった故郷の人たちだけがこの子を守っていてくれたのだと思つた。

初冬、もう寒さが本格化する。福島の人々も横浜に避難した人たちも頑張つて欲しい。こんなことがあっていいの、こんなことがあっていいの、か、……（私のつぶやき）。花見小林和